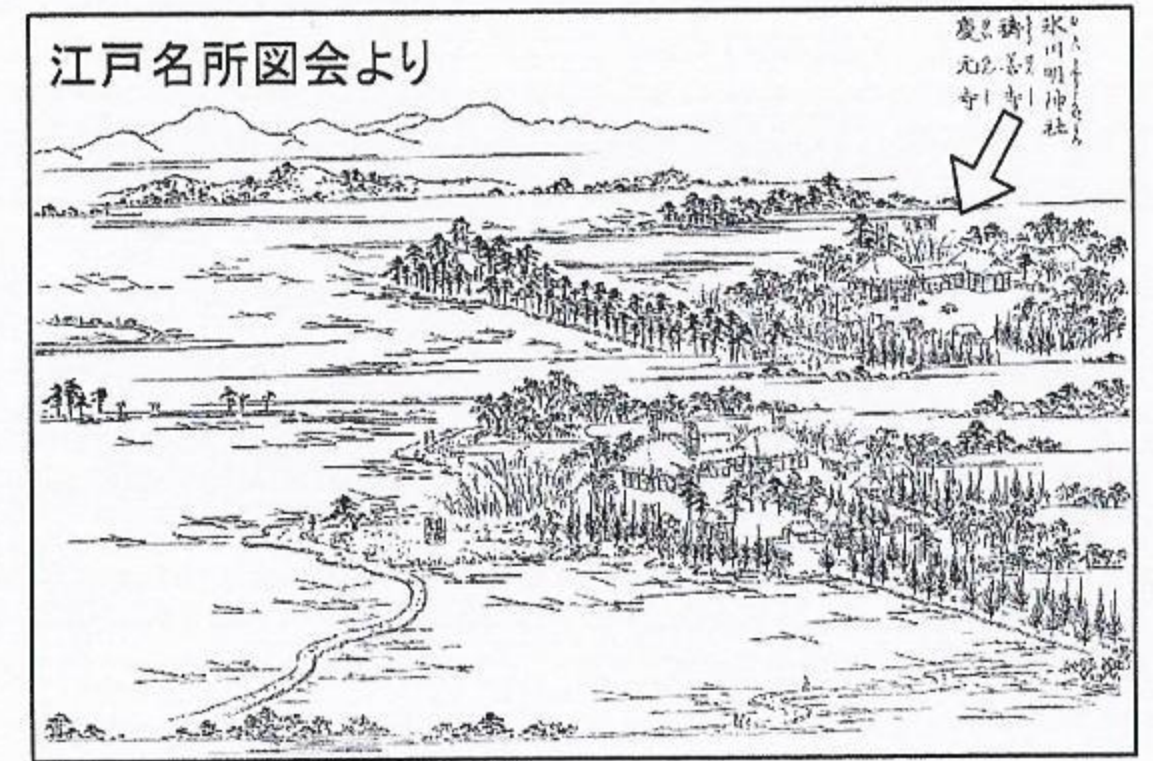


禱善寺

をさがせ!



江戸名所図会は、江戸時代後期の天保年間に斎藤長秋・莞斎・月岑の三代にわたって書き継がれた江戸と近郊の絵入り地誌、挿図は長谷川雪旦によるものです。喜多見についても上図のように、氷川神社、禱善寺、慶元寺が描かれています。今は無き禱善寺、一体どのようなお寺だったのか探してみることにしました。

HISTORY

取材協力／大盛寺、知行院、慶元寺、三鷹市教育委員会
生涯学習課、三鷹図書館、世田谷区教育委員会文化財係、古川英夫、佐藤寿(敬称略)
参考資料／世田谷区教育委員会『喜多見—世田谷区民俗調査第3次報告』1954.3、世田谷区『世田谷区史料 第一集』1958.1、世田谷区教育委員会『世田谷の地名(下)』1989.3、喜多見小学校『きたみ(20周年記念誌)』1992.3、世田谷区『ふるさとせたがやを語る』1998.3、三鷹市『三鷹市史』1970.11、三鷹市教育委員会『てくてく・みたか市内歴史散歩』2007.3、天台宗東京教区WEB、深大寺『深大寺学術総合調査報告書 第三分冊』1987.11

禱善寺の由緒

禱善寺は、一五三三(天文二)年、江戸景福軒呂頭(門重)、江戸撰津守常先により氷川神社の別当寺として神社の北に創建されました。知行院は一五八八(天正一六)年に開山されたこの寺の末寺でした。

別当寺(べつどうじ)というのは、仏教が興隆した時代に表れた本地垂迹(ほんぢおんじやく)説により、日本の八百万の神々は、実は様々な仏が化身として日本の地に現れた権現(ごんげん)であるとする考えで、「神社はすなわち寺である」とされ、神社の境内に僧坊が置かれて渾然一体となっていました。別当寺が置かれた背景には、戸籍制度が始まる以前の日本では、寺院の檀家帳が戸籍の役割を果たしたり、寺社領を保有し、通行手形を発行するなど寺院の権勢が今よりも強かったことがあげられます。禱善寺は一八六八(明治初)年の廃仏毀釈で廃寺となりました。世田谷区の資料によれば、「廃寺後、本堂は井の頭の大盛寺に移した」とあります。今も現存しているのか、行ってみようと思いました。

本堂は見つかるのか?

井の頭の池に朱塗りの弁天堂がありますが、その本坊が大盛寺で、弁天堂向かいの階段を上った所にあります。残念ながら本堂は昭和六三年に竣工したもので、禱善寺との関係も分かりませんでした。

調べてみると、大盛寺が明治二年に火災に合い翌年再建したことが分かりましたが禱善寺との関係を示す文書が見つかりません。一方、禱善寺の本堂が明治六年に喜多見小学校の前身「研精学舎」に使われたと書かれた資料もあり、年代が合いません。もしかしたら知行院のご住職に伺ってみると、「大盛寺の前の住職と父が親しかった」「大盛寺が禱善寺の本堂だから見に行けと言われて昭和三〇年代に見に行った」とのこと。また三鷹市では、解体前の昭和六一年に文化財調査で撮影した写真が見つかり、当時のご住職から、禱善寺の部材をもらってそのまま移築したと聞いていたことも判明しました。これらから、本堂は大盛寺へ移され、研精学舎に使われたのは境内にあった他のお堂だと考えられます。

禱善寺の名残り

禱善寺の名残は他にもあります。本尊の薬師如来は知行院の本尊となりました。慶元寺にはこれとは別の小さな薬師如来が移され秘仏となりました。狛江市駒井町、京王ストア裏にある圓住院は、禱善寺の門徒で隠居寺でした。また前述のように明治六年、廃寺後のお堂を借りて研精学舎が創設され、四年、そのお堂を造り直して喜多見小学校(後の砧小学校)が開校しました。そして、禱善寺、知行院、大盛寺ともに深大寺の末寺…、そんな関係をたどると、新たな世界が広がってきます。

昭和61年10月、解体前の大盛寺本堂(圓住院本堂と似ています)



写真提供: 三鷹市教育委員会

ポポポ

[Ponpoko News]

第 51 号



=発行=

2013年5月5日

喜多見ポポコ会議

www7.ocn.ne.jp/~ponpoko/

喜多見駅前商店街

コーヒー工房 BEANS



喜多見8-15-32、電話0120-66-7527

喜多見駅前商店街で1988年に創業しました。開店以来変わらないのは「注文を受けてからその場で焙煎」すること。お客様の好みに合わせて、またその日の気温、湿度、生豆の状態に合わせて焙煎具合を調整しています。オーガニック、フェアトレードのコーヒー豆も含め常時20~30種類置いてあります。

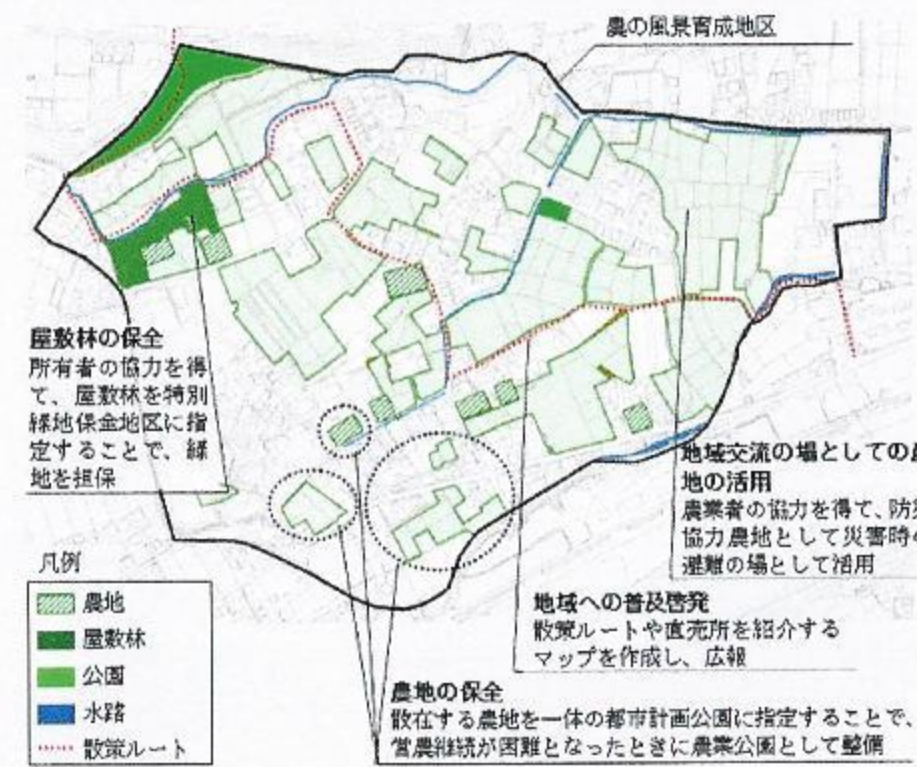
一番のお勧めは、世田谷みやげにも認定されている「男前珈琲」、江戸氏（後に喜多見に改姓）を偲んで作ったご当地コーヒーです。喜多見若狭守重政が若い頃から徳川綱吉の寵愛を受け、大名、側用人にまで出世したことから、男前だったんだろうとイメージして名づけました。苦味とコク、後から甘味が広がるオリジナルブレンド、アイス用の深煎にも合います。

世田谷通り二の橋交差点には直営のカフェ「Cafe de Beans」もあり、そちらではスイーツやカレー（男前カレー、べっぴんカレーも！）楽しめます。

スタッフの皆さん元気で、喜多見の町を盛り上げてくれそうです。

東京都指定 第1号

農の風景育成地区



東京都HPより「区域内で展開される取り組み例」

世田谷区は2009年に農地保全方針を策定して喜多見3・4・5丁目を農地保全重点地区に指定、2011年には慶元寺さんを取り囲んで点在する畑と元畑を喜多見農業公園として都市計画決定しました。さらに今回、喜多見4・5丁目一帯が東京都の「農の風景育成地区」に指定される予定です。これにより世田谷区は農業者や地域住民等と連携しながら、営農環境を向上し、農地や屋敷林を保全し、農を生かしたまちづくりに取り組んでいくことになります。

昭和62年世田谷区発行『世田谷らしい風景の創造をめざして』という報告書に「喜多見では歴史性や文化性がヴィジュアルに目にとまる形で、厚みのある風景として展開する」「喜多見地域の風景は、23区内全体でみても農的なものの本質が美事に残存した希少な例」だとして「区の費用を保全予算として投入すること」とまで書かれています。ようやく実現しますね。

8年ぶりに「喜多見児童館」へ復帰！

山田勝政館長



「実は小学生の頃、経堂から自転車で喜多見へカエルやオタマジャクシを捕りに来ていました」

—— 復帰、おめでとうございます！
「喜多見に戻りたくて、毎年、異動希望に喜多見と書いていたんですよ」
—— どのところが好きですか？
「最初に喜多見へ異動した平成14年、成城方面から水道道路を歩いて下るときに喜多見の町を見て、こんな素晴らしいところがあるのかと感動しました。実際に来てみると、四季が感じられ、人が温かく、誰でも受け入れてくれる雰囲気がありました。私は経堂で生まれ育ちましたが、自分が遊んでいた子どもの頃のような雰囲気があります。子ども達ものびのびとして子どもらしさがあります。地域の方々との関係も、頼むとか頼まれるとかでなく、一緒にやりましょうという関係なのも良いです」
—— 今後の計画はありますか？
「多摩川に一番近い児童館ということで、多摩川の源流から河口まで使って何かできないか、とにかくなるべく外へ出て、地域の方々と一緒に何かできないかと考えています」

みんなの野川をみんなで作る

野川その後



喜多見大橋下流に一時あった中州

2012年度の河床整備工事が3月末で終了し、ポンポコが野川ガサガサで出入りしている近くまで整備されました。景観上も生物の生息環境上も良好だった頃の野川に早く戻るように工夫され、喜多見大橋下流には中州も造られました。4月上旬の大雨で流されてしまいましたが、今はほどよく蛇行し、これから石や土が堆積して草が生えると、以前の野川のようになるのではないかと期待しています。

INFORMATION

野川の事前調査&ごみ拾い

[日時] 5月11日(土) 14:00~16:00
[持物] 長靴、(あれば)火ばさみ
[集合] 次大夫堀公園築山横のベンチ

春の野川ガサガサ

[日時] 5月18日(土) 10:00~12:00
[集合] 次大夫堀公園築山横のベンチ
[持物] 長靴、(あれば)玉網、バケツ
[申込] 喜多見児童館tel. 3417-9151